

血液内科

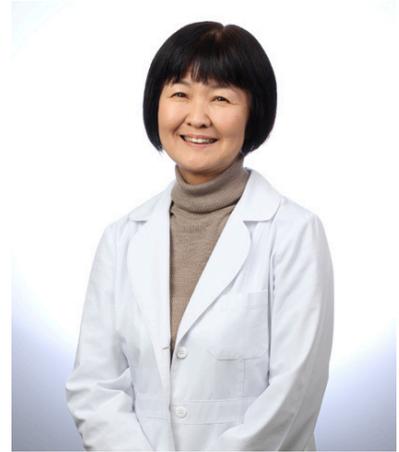


診療科紹介 HP

ご挨拶

当科は多くの皆様のご支援により、数々の挑戦と成果を得ておりますことを、この場を借りて、心より御礼申し上げます。

2024年には、安井寛先生、横山明弘先生、そして渡邊俊樹先生の3名を特任教授として迎え、診療体制を強化するとともに、研究の幅を広げる取り組みを進めました。また、日本造血・免疫細胞療法学会（JSTCT）の移植認定基準に基づき、非血縁者間の造血幹細胞移植を施行する診療科としてカテゴリー1に認定され、骨髄バンクや臍帯血バンクを活用した移植が可能となりました。これは患者さんにとって新たな希望となる大きな一歩です。皆様にとりましても、健康で充実した日々となりますことをお祈り申し上げます。



診療部長

新井 文子 (主任教授)

診療科の特色

聖マリアンナ医科大学病院 血液内科は、当該医療圏における日本血液学会に認定された8施設のうちの一つです。急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍や難治性貧血、血液凝固障害などの診療を幅広く行なっています。2024年1月に細胞治療センターを新設し造血幹細胞移植の拡充やCAR-T療法の導入を目指しております。

当科はこれまで長期にわたり紹介患者さんの受け入れを制限してきましたため、地域医療機関の皆様には大変なご迷惑をお掛けし申し訳ございませんでした。2023年1月の新入院棟の稼働に伴い、2023年2月から新規紹介患者さんの受け入れを開始しました。受け入れ再開のご案内後は、多くの患者さんをご紹介いただき有難うございます。引き続きご紹介を宜しくお願い致します。

患者さんのご紹介について

 聖マリアンナ医科大学病院
ST. MARIANNA UNIVERSITY HOSPITAL

 044-977-8111 (代表)

紹介受付時間：平日 8：30～15：00
土曜 8：30～11：00

 044-975-0608

医療機関からのWEB予約サイトはこちら

 聖マリアンナ医科大学病院
患者さんの紹介について



お問い合わせ先：メディカルサポートセンター

2023年2月より

新規紹介患者さん受け入れを再開

しております

①慢性活動性EBウイルス感染症の中心施設

EBウイルスが、普段は感染しないT細胞、NK細胞（白血球のひとつ、リンパ球の種類）に感染した結果、感染した細胞が増え、かつ勢いをましてさまざまな炎症症状を起こす病気です。根治のためには造血幹細胞移植が必要となります。慢性活動性EBウイルス感染症（慢性活動性EBウイルス病、CAEBV）に対しては、厚生労働省研究班に所属、成人診療では国内の中心施設として診断、治療を行っております。

専門外来：成人CAEBV専門外来（毎週月曜日 9：00～16：00）

診療内容 CABEVが疑われる成人（15歳以上）の患者さんに対し、診断を行います。

CAEBVと診断された患者さんに対し原則として入院で治療を行います。

②成人T細胞白血病リンパ腫（ATL）の治療を強化

HTLV-1（Human T-cell Leukemia Virus type I：ヒトT細胞白血病ウイルス1型）は、ヒトのT細胞（リンパ球の一種）に感染するレトロウイルスの一つです。成人T細胞白血病リンパ腫（ATL）はHTLV-1に感染したT細胞が長い年月をかけて、がん化することによって起こる病気です。急速に症状が進行することが多い、急性型、リンパ腫型、予後不良因子のある慢性型は「アグレッシブATL」と呼ばれ、予後不良であり、適応となる患者さんでは造血幹細胞移植を施行します。2023年度よりHTLV-1キャリアを含め、HTLV-1に感染している患者さんを対象とした専門外来を開始しました。

専門外来：ATL・HTLV-1キャリア外来（毎週水曜日 13：00～16：00）

③造血幹細胞移植の施行

血液悪性疾患に対する根治的治療法で、この移植は、通常の抗がん剤治療（化学療法）や免疫抑制療法だけでは治すことが難しい血液がんや免疫・造血不全症などに対して、完治（完全に治すこと）を目的として行う治療となっています。

2023年1月に新入院棟に無菌病室ができ、移植件数は飛躍的に増加しました。2024年5月には日本造血・免疫細胞療学会の「非血縁者間造血幹細胞移植を施行する診療科（カテゴリーI）」の認定を取得し、骨髄バンクや臍帯血バンクを介しての移植も開始しています。

